

まだれいな墓碑

島原のキリシタン墓碑のほとんどが平置きなのに対し、この墓碑は縦に置かれています。デイスaitでつくられた角が丸い平板型のこの墓碑は、高さ 91cm（地上部分 74.5cm、地下部分 16.5cm）で、底部に向かって幅広になっています。

正面には 2 本の横棒が特徴の形十字が浮き彫りされています。下部左には「まだれいな」（ポルトガル語の Madalena に由来）という復活後のイエスを最初に目にした女性信者、マグダラのマリアにちなんだ洗礼名が辛うじて読み取れます。

この墓碑は、江戸時代（1603-1868）初期につくられたと推測されています。まだれいなについて分かっていることは何もありませんが、当時石のお墓が買えるのは金銭と権力に恵まれた人々だけだったことから、彼女は裕福な家庭の出身だった可能性が高いと言えます。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている 192 基のうち、146 基が長崎県にあり、その全てが 17 世紀初期のもので、（1581 年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という 3 文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置き of 墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。